

# 果樹カメムシ情報第3号

平成23年9月1日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除グループ

## 1 現在の発生状況

(1) チャバネアオカメムシのフェロモントラップ及び予察灯における誘殺数は8月下旬まで少ない状況が続いています(図1、2)。果樹園への飛来や果樹カメムシ類による果実の被害は確認されていません。

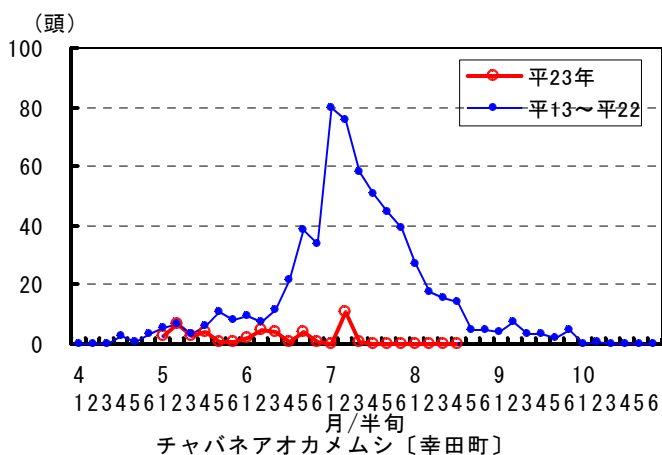


図1 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数

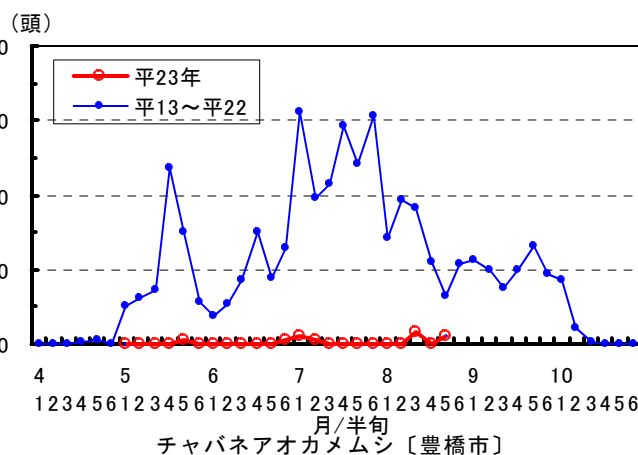


図2 予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺数

(2) 8月下旬のヒノキ1結果枝当たりのチャバネアオカメムシ寄生虫数は成虫0.32頭(平年1.1頭)、幼虫0.18頭(平年1.6頭)と少ない状況です(図3)。口針鞘数が1球果あたり25本になるとヒノキから離脱して果樹園などへ飛来しますが、今年はヒノキ球果が平年より多いため、8月下旬のヒノキ1球果あたりの口針鞘数は平均2.6本と少ない状況です(図4)。

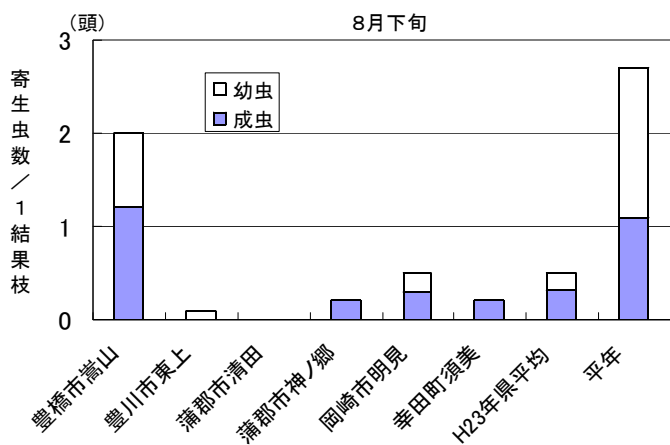


図3 ヒノキ結果枝におけるチャバネアオカメムシ寄生虫数  
※平年は平成17年から平成20年の平均値

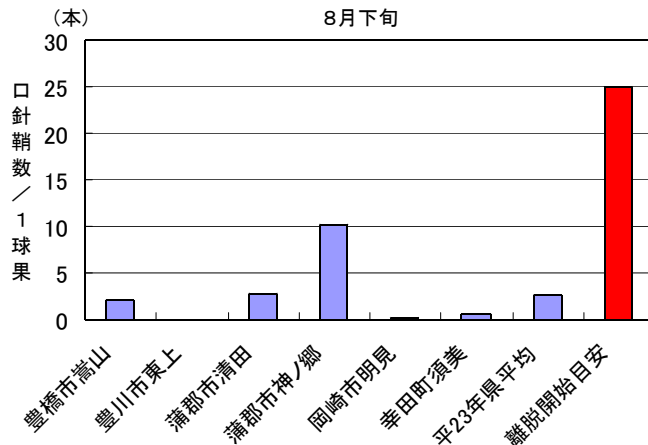


図4 ヒノキ球果における口針鞘数

## 2 今後の発生予測

- (1) ヒノキ結果枝寄生虫数は少なく、エサであるスギ・ヒノキ球果着生量も平年より多いため、果樹カメムシ類はスギ・ヒノキ球果をエサにして山の中で繁殖しています。
- (2) 8月下旬時点のヒノキ球果の口針鞘数から、9月中に果樹カメムシ類がスギ・ヒノキから離脱して果樹園へ飛来することは少ないと予測します。
- (3) スギ・ヒノキ林近くの果樹園では、台風通過などで突発的に飛来が急増することがありますので、注意しましょう。